

国際文化研究会

背景

ウィリアム・エンプソンは『曖昧の七つの型』において、「曖昧」という、詩の魅力の源泉について古今の例から文彩や地口を鮮やかに解説している。本書の後半では、テキストの幸運な混乱や矛盾、作者の心理、読者による解釈の発明を説明しようとしている。同時代のフロイト思想に触発された新しい批判書は、後の構造主義や脱構築を凌ぐ社会性・多様性・現代性を示している。本研究会では、本書を輪読することで「『文化』とは何か」、という問いに対して再考する。グローバル化の名のもとに国や地域を超えた人間の移動が激化した社会状況の中、人は新たな「文化」を生みだしつつ、同時に個人が生まれ育った国や社会に根付いた「文化」も持ち合わせている。これまで以上に「文化」の成り立ちやその様相が複雑になる中で、我々が研究対象とする「文化」は、容易に線引きすることができない。そのため「文化」とその研究について基礎から学び、再考せねばならない。また、この「線引き」は、実際に論文執筆を行う際にも重要な問題である。

目的

「『文化』とは何か」

ウィリアム・エンプソン著『曖昧の七つの型』の輪読・ディスカッションをとおして、脱領域的文化研究の思想・理論を学ぶ。また、研究報告会にて個人の発表をおこない、学会発表等の備えの場とする。

運営方法

場所：主に究論館プレゼンテーションルーム/Zoom
頻度：月に1、2回
形態：①研究発表・議論 ②講師招聘 ③読書会
①各自の専門分野について初修者にも分かり易く20分で報告・質疑応答と議論
②専門分野の異なるメンバー間に共通する議題の発見を促す目的、本学教授1名に講義を依頼
③あらかじめ設定した共通課題についての討議や読書会

メンバー・研究内容

文研・英語圏／猪熊慶祐 アメリカ文化・文学
国際・／五十嵐
文研・英語圏／木下さき ファンタジー文学
文研・英語圏／本井佑衣 認知科学・対話研究

開催内容

・研究発表

「クリスティ・ミンストレルズによるシェイクスピア作品の利用について」猪熊

「『ハリーポッター』における死生観」木下

「対話におけるインタラクティブリズム」本井

「原理から考える政治学」五十嵐

・輪読会

ウィリアム・エンプソン『曖昧の七つの型』

【通算 8回開催】

※運営計画協議等を含む

